

第1章

高校生の 学習に関する意識・実態

- 「学習に関する意識・実態調査」の分析より -



第1節 高校生の学習行動

1. 学校での学習の様子

①好きな教科・嫌いな教科

高校生が好きな教科のベスト・スリーは、①「体育」(「とても」+「まあ好き」=66.5%)、②「音楽」(47.4%)、③「地歴」(46.7%)。逆にワースト・スリーは、①「公民」(25.6%)、②「美術」(35.4%)、③「数学」(38.7%)である。時系列的にみると、「国語」「理科」「体育」「家庭」の4教科で「好き」とする者が増加している。



あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

高校生は教科の勉強をどのように考えているのだろうか。高校生の教科観を、(1)好きな教科・嫌いな教科、(2)授業の理解度、(3)がんばって勉強したい教科という3つの側面に分けてとらえた。

まず、高校生の好きな教科と嫌いな教科である(図1-1-1)。第2回調査まででは一括りにして設問した、「社会(地歴・公民)」「芸術」を、それぞれ、「地歴」と「公民」、「音楽」と「美術」に分けて尋ねた。また教科ではないが、「総合的な学習の時間」についても尋ねている。

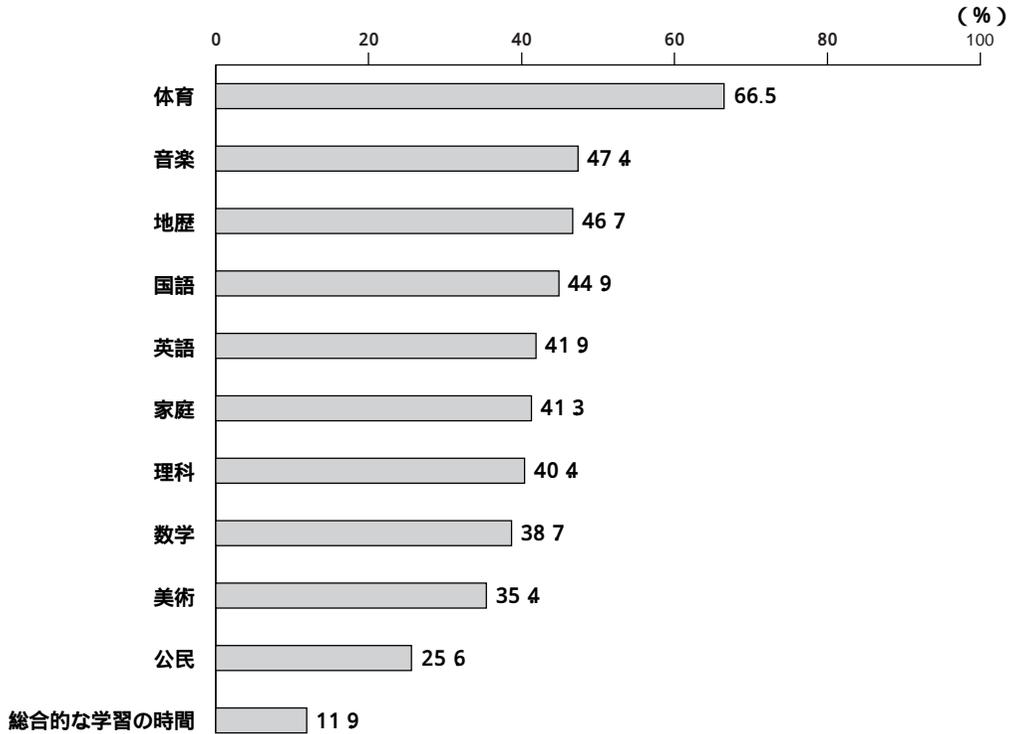
全体としてみると、高校生が好きな教科のベスト・スリーは、①「体育」(「とても」+「まあ好き」=66.5%)、②「音楽」(47.4%)、③「地歴」(46.7%)である。以下、「国語」(44.9%)、「英語」(41.9%)、「家庭」(41.3%)と続く。逆に、「好き」とする回答が少ないのは、①「公民」(25.6%)、②「美術」(35.4%)、③「数学」(38.7%)である。「履修したことがない」者が38.0%あるため比較することはできない

が、「総合的な学習の時間」が「とても好き」と答えた者は3.2%、「まあ好き」は8.7%であり、合わせても履修者のおよそ5分の1にとどまっている。

性別にみると(表1-1-1)、男女とも「体育」が好きな教科のベスト・ワンであり、逆に「公民」と「総合的な学習の時間」を好きな者はごく少ない点は共通しているが、その他の教科に関してはかなり選好が異なる。女子に比べて男子で順位が高いのは、「地歴」「理科」「数学」、女子で順位が高いのは、「音楽」「家庭」「国語」「英語」である。

時系列比較が可能な6教科について(図1-1-2)、第1回調査から第3回調査までを比較すると、6教科中、「国語」「理科」「体育」「家庭」の4教科で「好き」とする者が増加する傾向がみられる。「数学」と「英語」は横ばいであり、「好き」とする者が減少傾向にある教科はみられない。高校生の教科に対する意識は、おおむね肯定的な方向へと変化しているようにみえる。

図1-1-1 好きな教科



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。

注2) 「総合的な学習の時間」にのみ選択項目に「履修したことがない」(38.0%)が含まれる。

注3) サンプル数は3808人。

表1-1-1 好きな教科(性別)

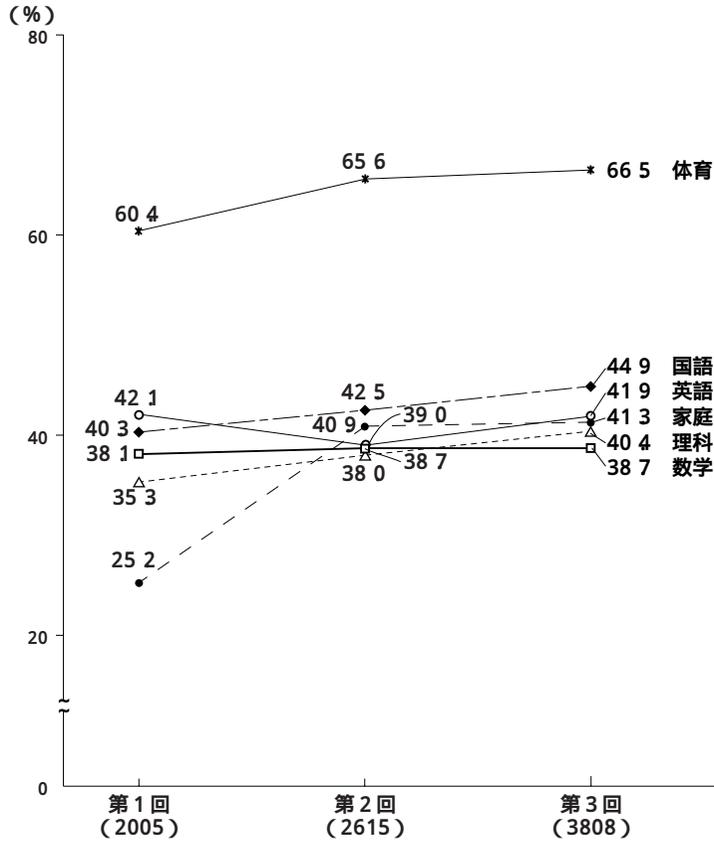
		(%)	
男子(1878)		女子(1928)	
体育	73.2	体育	59.9
地歴	50.0	音楽	58.8
理科	48.9	家庭	54.2
数学	46.8	国語	53.8
音楽	35.8	英語	48.3
国語	35.7	地歴	43.6
英語	35.2	美術	40.5
美術	30.0	理科	32.2
家庭	28.1	数学	31.0
公民	27.7	公民	23.7
総合的な学習の時間	11.7	総合的な学習の時間	12.2

注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。

注2) 「総合的な学習の時間」にのみ選択項目に「履修したことがない」(38.0%)が含まれる。

注3) ()内はサンプル数。

図1-1-2 好きな教科(時系列)



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) ()内はサンプル数。

②授業の理解度

授業を「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計数値の順に並べると、①「国語」44.9%、②「地歴」38.5%、③「英語」38.3%、④「数学」32.6%、⑤「理科」31.6%、⑥「公民」23.2%となる。時系列的にみると、4教科中、「国語」「理科」「英語」の3教科で、授業の理解度の上昇傾向がみられる。



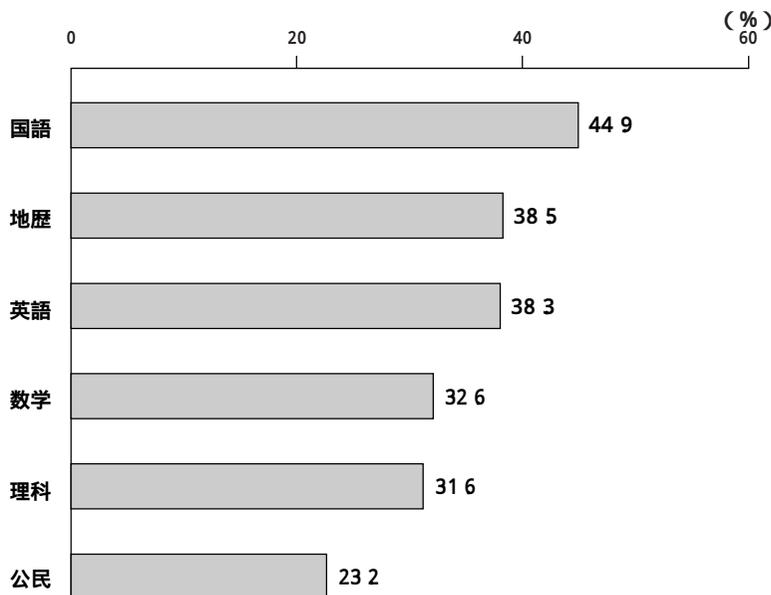
学校の授業をどのくらい理解していますか(わかっていますか)。

6教科の授業について、どの程度理解しているかについて質問した(図1-1-3)。「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の数値を合計してみると、「国語」44.9%、「地歴」38.5%、「英語」38.3%、「数学」32.6%、「理科」31.6%、「公民」23.2%であった。しかし、理解度が相対的に高い「国語」「地歴」「英語」についても、70%以上理解していると答えたのは4割前後であり、「公

民」にいたっては4人に1人程度でしかない。これらの数値をみる限り、学習内容を消化している生徒は決して多数を占めているとはいえない。

学校ランク別にみると(図1-1-4)「理科」を除いて、いずれの教科についても、上位ランクの学校ほど理解度の高い傾向がある。いずれのランクに関しても、「国語」の理解度がもっとも高く、「公民」の理解度がもっ

図1-1-3 授業の理解度



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) サンプル数は3808人。

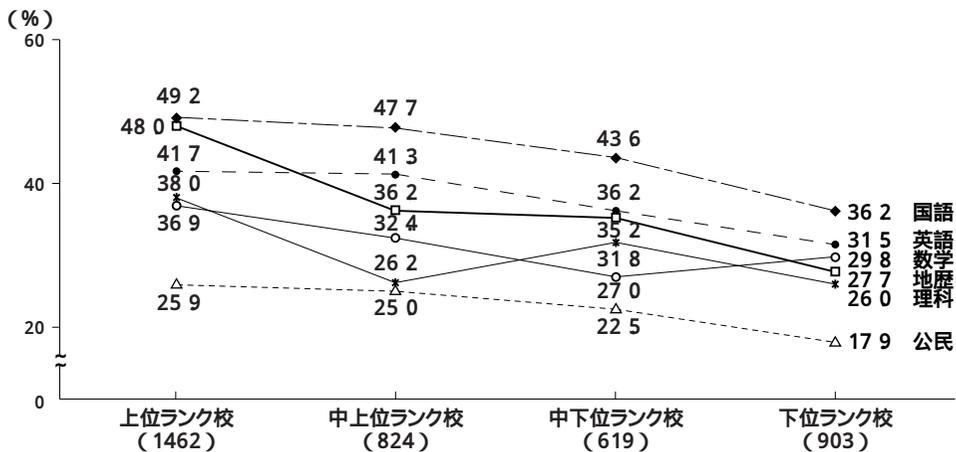
とも低いことは共通している。

授業の理解度は、時系列的にみてどう変化してきたのだろうか。比較可能な「国語」「数学」「理科」「英語」についてみたのが、図1-1-5である。4教科中、「国語」「理科」「英語」の3教科で、授業の理解度の上昇傾向がみられる（「英語」については、第2回調査から第3回調査にかけて理解度がアップしている）。「ほとんどわかっている」と「70%

くらいわかっている」と答えた者の合計は、「国語」第1回37.7% 第3回44.9%、「理科」26.0% 31.6%である。「数学」についてはほとんど変化していない。総じて、授業の理解度はやや上昇傾向にあるとみてよい。

ただし、これらの知見は、生徒集団に対して授業をどのくらいわかっているかを尋ねた結果であり、生徒による「主観的評価」であることに留意しておく必要がある。

図1-1-4 授業の理解度（学校ランク別）

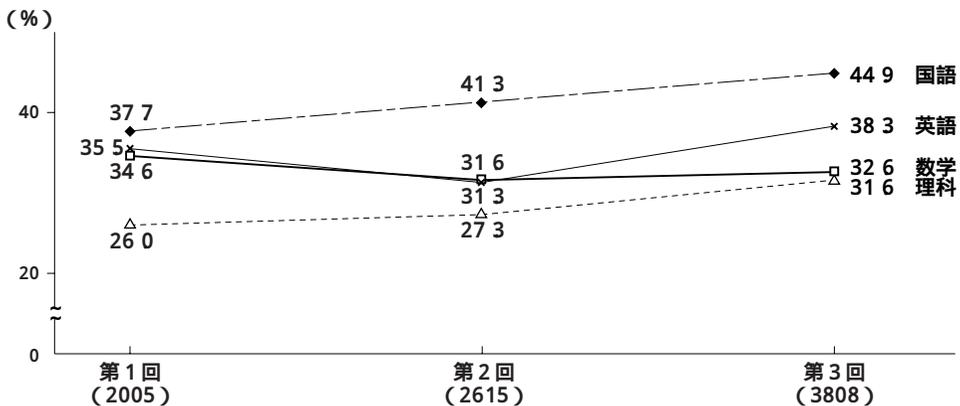


注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。

注2) 「上位ランク校」は偏差値55以上、「中上位ランク校」は50以上55未満、「中下位ランク校」は45以上50未満、「下位ランク校」は45未満。

注3) ()内はサンプル数。

図1-1-5 授業の理解度（時系列）



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。

注2) ()内はサンプル数。

③がんばって勉強したい教科

①「英語」79.7%、②「数学」69.6%、③「理科」37.9%、④「国語」36.0%、⑤「地歴」24.2%を、これから特にがんばって勉強したい者が多い。「公民」を除く非実技系の教科に、回答が集中している。



これからどんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。

高校生は、どんな教科をこれからがんばって勉強したいと考えているのだろうか。特にがんばりたいと思う教科を3つまで選択させた結果が、表1-1-2である。

全体としてみると、①「英語」79.7%、②「数学」69.6%、③「理科」37.9%、④「国語」36.0%、⑤「地歴」24.2%を選択する者が多い。「公民」を除く非実技系の教科に、回答が集中している。その他の教科を特にがんばって勉強したいと答えたのは、「体育」13.0%を除いて数%にとどまる。また、「総合的な学習の時間」を選択したのは5.5%である。

授業の理解度と、がんばって勉強したいか否かとの関連をみると、3つのグループに分

かれる。第一は、授業の理解度は相対的に高いが（それゆえに）、それほどがんばって勉強したいとは思われていない教科。「国語」と「地歴」があてはまる。第二は、理解度はそれほど高くはないが（それゆえに）、これからがんばりたい教科。「英語」「数学」「理科」の3つが該当する。最後は「公民」で、理解度も低くがんばって勉強しようとも考えられていない。

学校ランク別にみると、「数学」「理科」「英語」の3教科を特にがんばって勉強したい者が、学校ランクの上位に多く、逆に下位で「国語」をあげる者が多い傾向がある。

表1-1-2 がんばって勉強したい教科（学校ランク別）

	全体 (3808)	学校ランク			
		上位ランク校 (1462)	中上位ランク校 (824)	中下位ランク校 (619)	下位ランク校 (903)
国語	36.0 ④	33.4 ④	32.3 ④	42.6 ③	38.9 ③
地歴	24.2 ⑤	23.3 ⑤	22.1 ⑤	26.2 ⑤	26.4 ⑤
公民	5.4	5.3	4.7	7.4	4.8
数学	69.6 ②	79.1 ②	73.3 ②	52.8 ②	62.2 ②
理科	37.9 ③	45.6 ③	41.0 ③	27.3 ④	29.7 ④
英語	79.7 ①	82.2 ①	84.6 ①	75.3 ①	74.3 ①
音楽	7.5	5.1	6.8	12.1	8.9
美術	5.1	3.1	4.5	9.0	6.4
体育	13.0	7.5	12.4	15.0	21.0
家庭	4.2	2.7	2.3	8.7	5.4
総合的な学習の時間	5.5	2.4	7.3	8.1	7.2

注1) 回答は「特にがんばりたいと思う教科」を11項目中3つまで選択。

注2) 内数字は順位。

注3) ()内はサンプル数。

④ 文理のコース

現在のコース選択は、「文系」47.8%、「理系」38.5%、「どちらでもない・未定」12.2%という状況である。男子で、また学校ランクが上位であるほど、「理系」の比率が高い。



あなたのことについてうかがいます。あなたは文理どちらのコースですか。

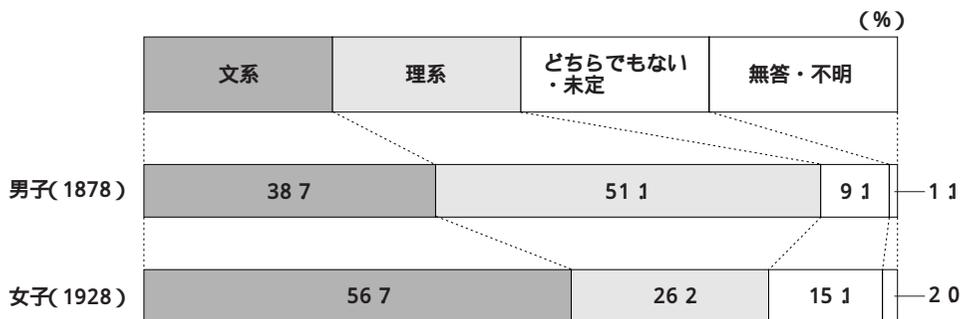
現在の、文系・理系のコース選択の状況を尋ねた。ただし、設問形式から、①学校で類型制が採用されており、そこでどのコースを選択しているかと、②学校では類型制は採用されていないが、主観的に文系・理系どちらにあてはまるかの、双方が含まれると考えられる。

全体としてみると、「文系」47.8%、「理系」38.5%、「どちらでもない・未定」12.2%である。

性別に大きく異なっており(図1-1-6)、女子は「文系」(56.7%)、男子は「理系」(51.1%)が、それぞれ過半数を占める。

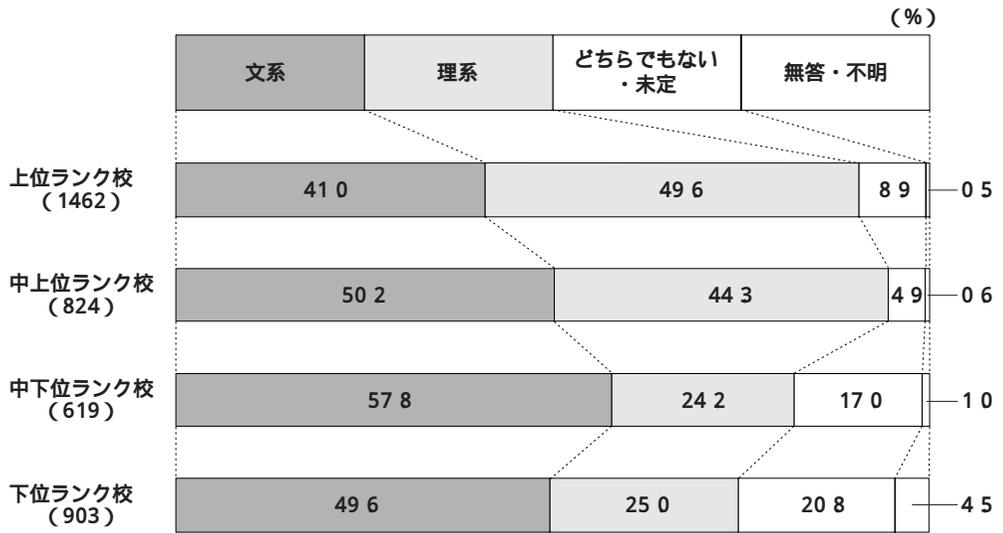
学校ランクによっても文系、理系の構成比率には大きな差がある(図1-1-7)。中下位ランク校と下位ランク校の間には顕著な差はないが、学校ランクが上位であるほど「理系」が多い傾向がある(「理系」の比率=上位ランク校49.6%、中上位ランク校44.3%、中下位ランク校24.2%、下位ランク校25.0%)。

図1-1-6 文理のコース(性別)



注) ()内はサンプル数。

図1-1-7 文理のコース（学校ランク別）



⑤ 高校3年間で履修する予定の科目

科目によって履修（予定）率の差は大きく、半数を切っているのは、「数学Ⅲ」「物理」「地学」「地理」「公民全科目」である。



あなたは、高校3年間でどの教科科目を履修することになると
 思いますか。履修する予定のものすべてに をつけてください。

高校1年生から3年生までの「数学」「理科」「地歴」「公民」の4教科に関して、高校3年間で履修することになる科目（予定を含む）をすべて選択させ、結果を整理したのが表1-1-3である。

教科別にまとめると、以下のようになる。
 数学...数学Ⅰ・数学A 92.1%、数学Ⅱ・数学B 83.3%、数学Ⅲ 40.7%
 理科...化学 76.1%、生物 66.0%、物理 34.3%、地学 14.9%
 地歴...世界史 73.5%、日本史 58.0%、地理 39.2%

公民...倫理 48.6%、政治・経済 46.1%、現代社会 39.0%

履修（予定）率が半数を切っているのは、「数学Ⅲ」「物理」「地学」「地理」「公民全科目」である。

学校ランク別にみると、次の傾向がある。

- ① 下位ランクの学校ほど履修率が高い科目は、「現代社会」と「生物」の2科目である。
- ② 多くの科目は上位ランクの学校ほど履修率が高い。特に、「数学Ⅲ」「倫理」「政治・経済」「物理」「化学」で差が大きい。

表1-1-3 高校3年間で履修する予定の科目（学校ランク別）

(%)

履修予定率	全体（3808）	学校ランク			
		上位ランク校（1462）	中上位ランク校（824）	中下位ランク校（619）	下位ランク校（903）
90%以上	数学Ⅰ・数学A 92.1	数学Ⅰ・数学A 96.4 数学Ⅱ・数学B 95.6	数学Ⅰ・数学A 94.3 数学Ⅱ・数学B 91.6	—————	—————
80%以上	数学Ⅱ・数学B 83.3	化学 81.5	—————	数学Ⅰ・数学A 87.2 世界史 82.1	数学Ⅰ・数学A 86.4
70%以上	化学 76.1 世界史 73.5	世界史 77.6 倫理 76.3	化学 79.0 世界史 75.2	化学 70.8	生物 76.9 数学Ⅱ・数学B 72.4
60%以上	生物 66.0	政治・経済 67.6 生物 60.3	日本史 66.5 生物 64.6	生物 65.8	化学 68.4
50%以上	日本史 58.0	日本史 54.4 数学Ⅲ 52.9	地理 52.8	数学Ⅱ・数学B 59.0 日本史 57.2	世界史 59.6 現代社会 59.4 日本史 56.5
40%以上	倫理 48.6 政治・経済 46.1 数学Ⅲ 40.7	物理 49.7	政治・経済 46.5 数学Ⅲ 40.5	現代社会 43.0	—————
30%以上	地理 39.2 現代社会 39.0 物理 34.3	地理 38.6	現代社会 39.1 倫理 34.6 物理 33.1	倫理 38.9 政治・経済 34.6 地理 33.3	地理 31.6
20%以上	—————	現代社会 24.6	地学 22.2	数学Ⅲ 28.9 物理 26.7	数学Ⅲ 29.3 倫理 23.0
10%以上	地学 14.9	地学 13.3	—————	地学 11.1	政治・経済 18.6 物理 15.8 地学 13.4

注1) 複数回答。

注2) ()内はサンプル数。

⑥ 授業の受け方

時系列的にみると、受講態度の積極化と授業中の逸脱行動の減少を示唆する変化が現れている。「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」(第1回58.1% 第3回68.4%)、「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」(27.6% 36.6%)が増加した。他方で、「近くの人とおしゃべりをする」(56.2% 38.1%)、「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」(31.1% 17.7%)は減少をみた。



あなたの授業中の様子についてうかがいます。

授業の受け方を中心に、13項目を設定して質問を行った。

「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」は、「よくある」77.6%と「時々ある」16.0%を加えると9割を超える。板書されたことはおおむねノートすると大多数が答えている。他方、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」については、そうする者は格段に減少する(「よくある」28.0%、「時々ある」40.4%)。

授業中の逸脱行動に関しては、「ぼうっと他のことを考えている」(「よくある」28.7%)、「授業中にいねむりをする」(24.3%)、「近くの人とおしゃべりをする」(10.3%)、「内職(他の科目の勉強など)をする」(8.3%)、「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」(5.0%)と、頻度の高いものでも、4分の1程度にとどまる。

「授業の内容が難しいと思う」のは、「よくある」28.7%、「時々ある」48.3%。逆に「授業の内容が簡単すぎると思う」のは、それぞれ1.0%と10.6%である。「授業の内容が難しいと思う」ことのほうが圧倒的に多いことがわかる。

「本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う」(「よくある」75.7%)、「テストで間違えるとくやしいと思う」(62.8%)

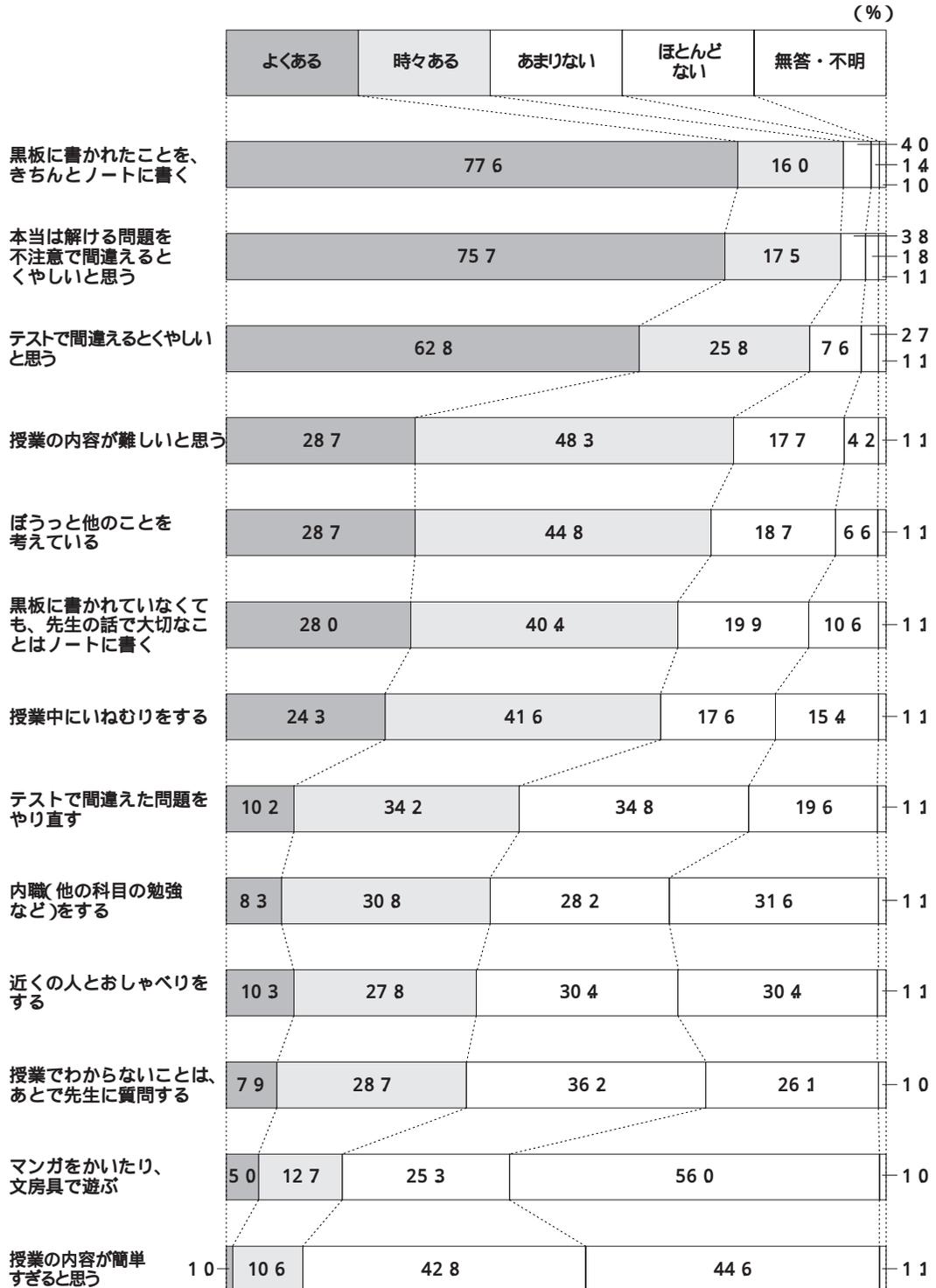
は6割以上の高率を示す。その一方で、「テストで間違えた問題をやり直す」は、10.2%(「よくある」)にとどまり、また「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」も7.9%にすぎない(図1-1-8)。

以上の授業の受け方は、時系列的にみてどう変化してきたのだろうか。第1回調査から第3回調査にかけて、顕著な変化がみられたのは次の点である。

①「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」(「よく」+「時々ある」=第1回58.1% 第3回68.4%)、「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」(27.6% 36.6%)の増加。②「近くの人とおしゃべりをする」(56.2% 38.1%)、「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」(31.1% 17.7%)が顕著に減少。③「内職(他の科目の勉強など)をする」(44.6% 39.1%)もわずかに減少(図1-1-9)。

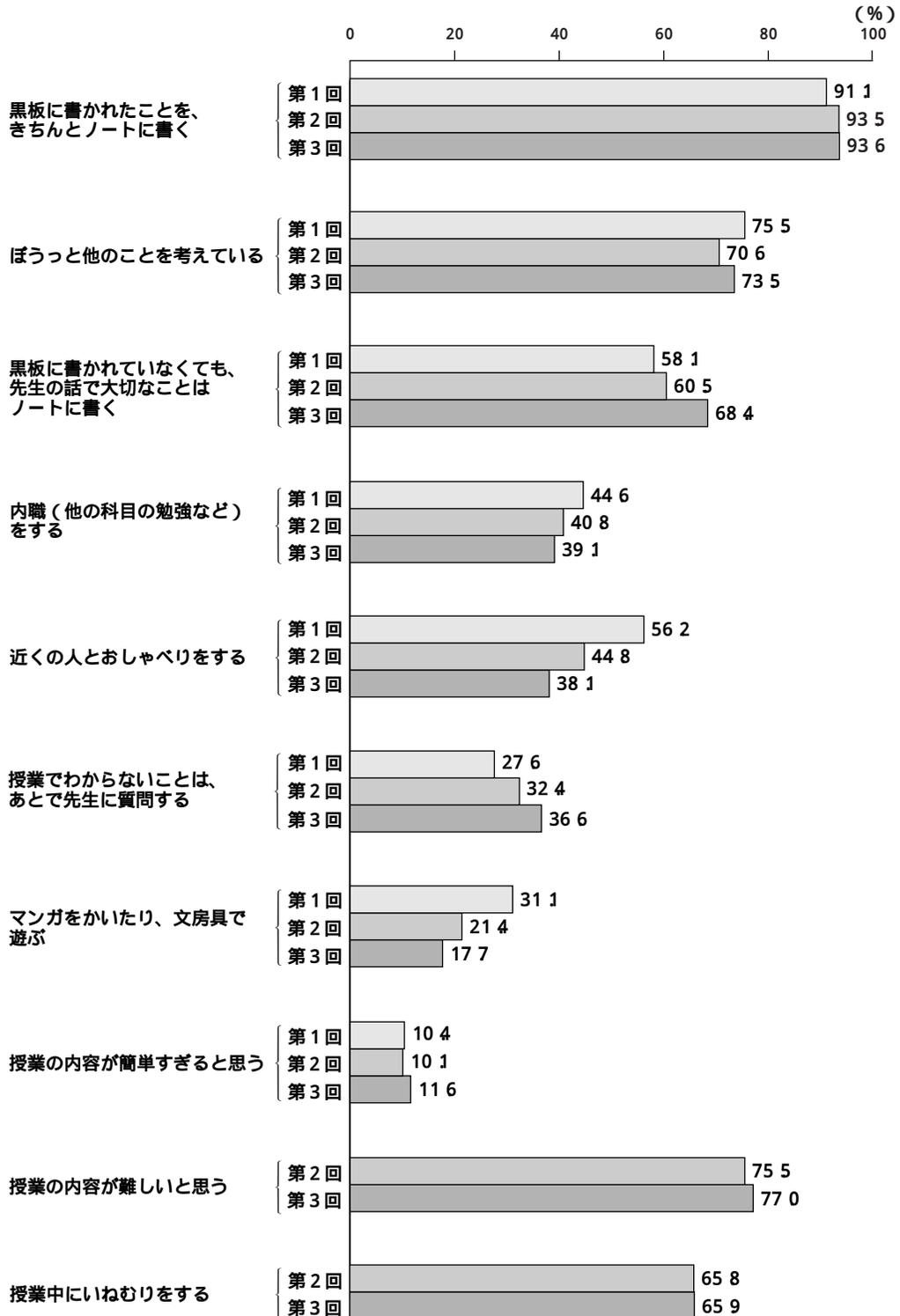
これらからみえてくるのは、受講態度の積極化と授業中の逸脱行動の減少である。概して、「まじめに、積極的に授業を受けている」と答える生徒が、ここおよそ10年間で増加している。ただし、これらの傾向は、生徒たちの自己評価、主観的な判断であることに留意を要するだろう。

図1-1-8 授業の受け方



注) サンプル数は3808人。

図1-1-9 授業の受け方(時系列)



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) は第1回に該当項目なし。

注3) サンプル数は第1回2005人、第2回2615人、第3回3808人。

⑦好きな学校の勉強方法

生徒たちが好む勉強方法（授業のタイプ）は、①「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」82.1%（「とても好き」+「好き」）、②「友だちと話し合いながら進めていく授業」60.8%、③「グループで何かを考えたり調べたりする授業」51.3%、④「ドリルやプリントを使ってする授業」50.8%である。グループ学習や友だちとの話し合いを好む生徒は半数を超えているものの、昔ながらの黒板を使って先生が教えてくれる授業が圧倒的な支持を得ている。



あなたは、次にあげる学校の勉強方法は、どのくらい好きですか。

さまざまな勉強方法（授業のタイプ）の中で、高校生はどのようなタイプの授業を好んでいるのだろうか。

「とても好き」と「好き」の合計比率に着目して10のタイプを並べてみると次のようになる。

5割以上の生徒が好きだと答えている授業

- ①「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」（82.1%）
- ②「友だちと話し合いながら進めていく授業」（60.8%）
- ③「グループで何かを考えたり調べたりする授業」（51.3%）
- ④「ドリルやプリントを使ってする授業」（50.8%）
- ⑤「学校外のいろいろな場所に行つてする授業や調査」（50.7%）

3割程度の生徒しか好きだと答えていない授業

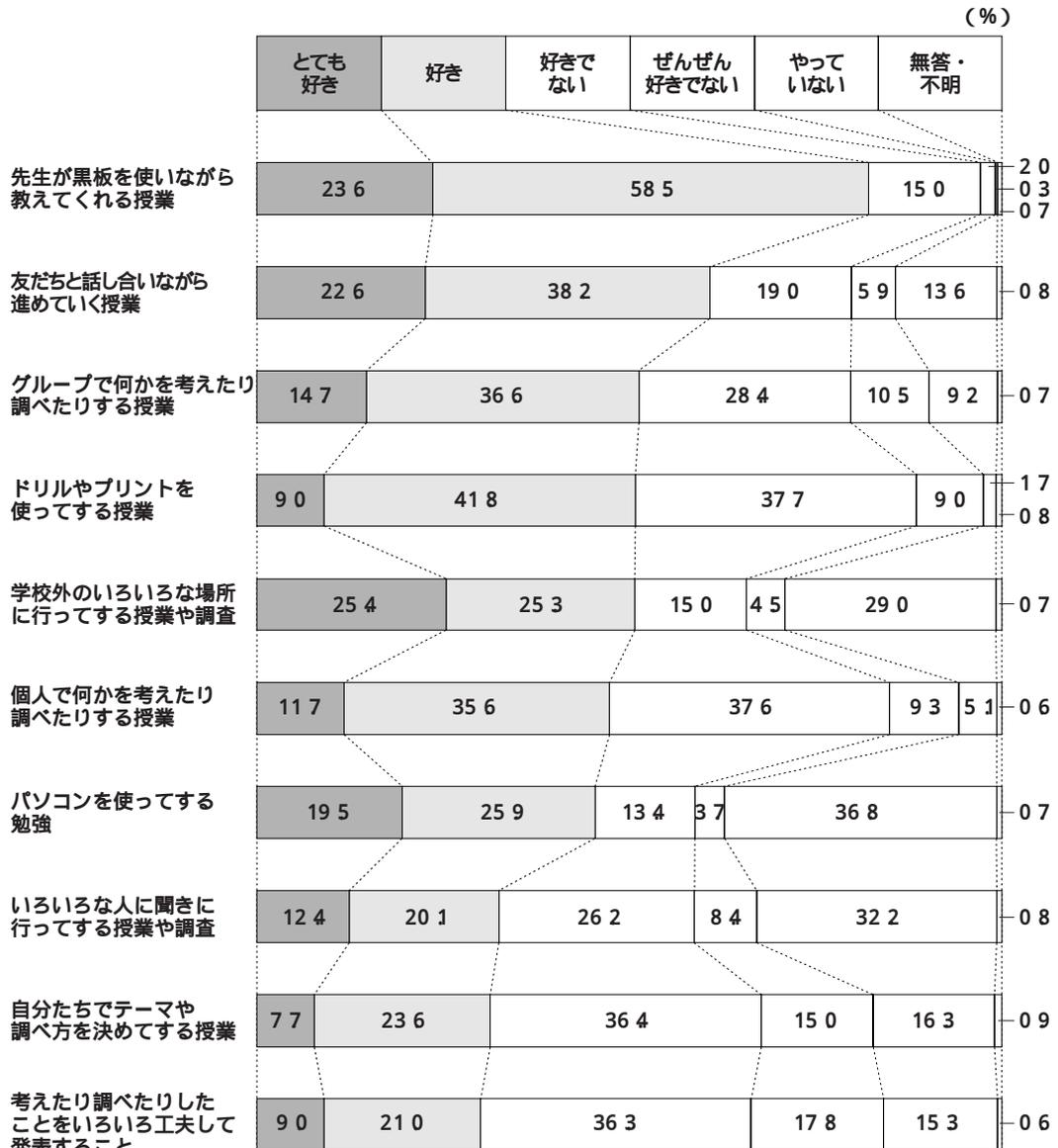
- ①「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」（30.0%）
- ②「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」（31.3%）
- ③「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査」（32.5%）

グループ学習や友だちとの話し合いを好む生徒が半数を超えているものの、昔ながらの黒板を使って先生が教えてくれる授業が圧倒的な支持を得ていることが特徴である。またドリルやプリントを使った授業の支持率も相対的に高い（図1-1-10）。

この設問で同時にわかるのは、そうした多様なタイプの授業が、どの程度、高校現場で実施されているのかである。「やっていない」の比率が大きいのは、①「パソコンを使ってする勉強」36.8%、②「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査」32.2%、③「学校外のいろいろな場所に行つてする授業や調査」29.0%である。パソコンを使った勉強や、いわゆる「調べ学習」は、高校現場では必ずしもすべての学校で行われているわけではないことがうかがえる。

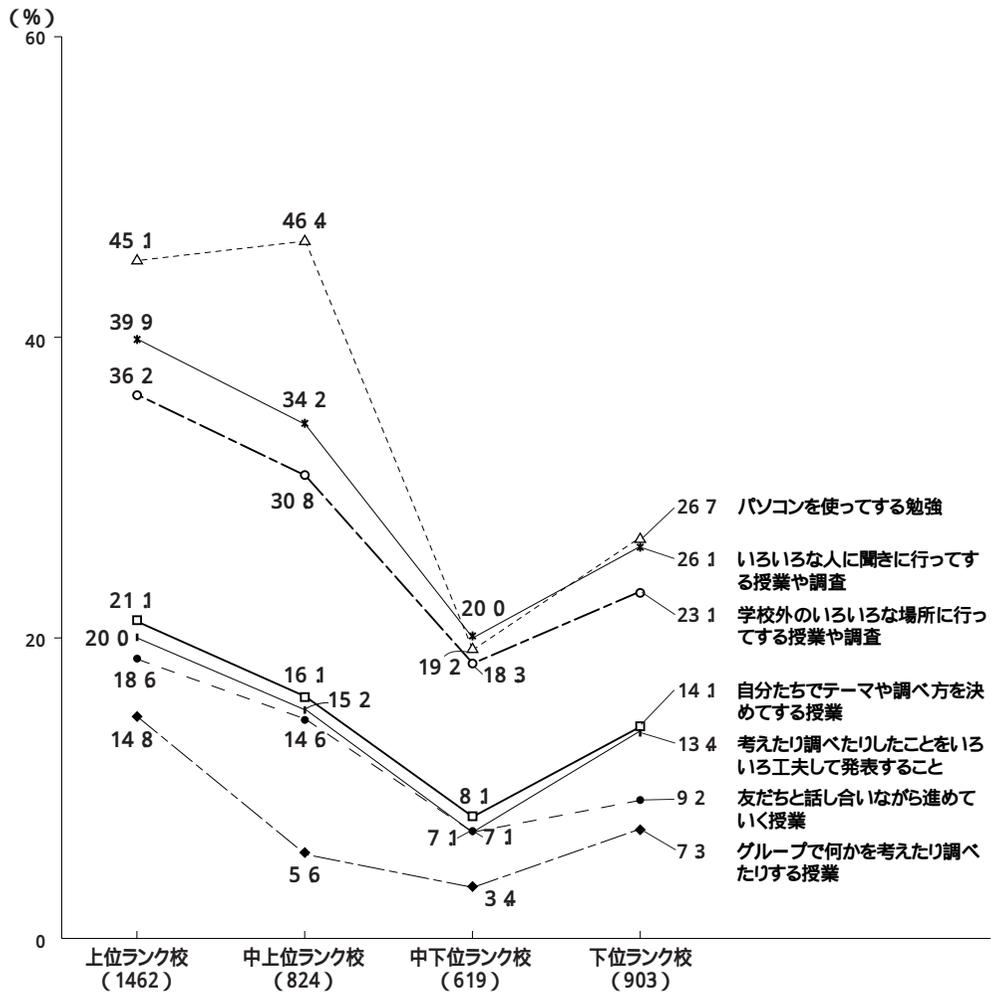
さまざまなタイプの授業の実施率は、学校ランクによっても異なっている（図1-1-11）。図を一瞥してわかるように、上位ランクの高校で実施率が低い——さまざまなタイプの授業について「やっていない」が多く、言い方をかえれば、板書型の伝統的授業に依存する度合いの高いことが示唆できる。

図1-1-10 好きな学校の勉強方法



注) サンプル数は3808人。

図1-1-11 やっていない授業・勉強方法（学校ランク別）



注1) 数値は「やっていない」割合。
 注2) ()内はサンプル数。